

キトラ古墳壁画の保存修理について

古墳壁画保存活用検討会保存技術WG (第6回)
(H21. 10. 21)
配付資料4

1. 壁画を再構成する範囲及び単位について

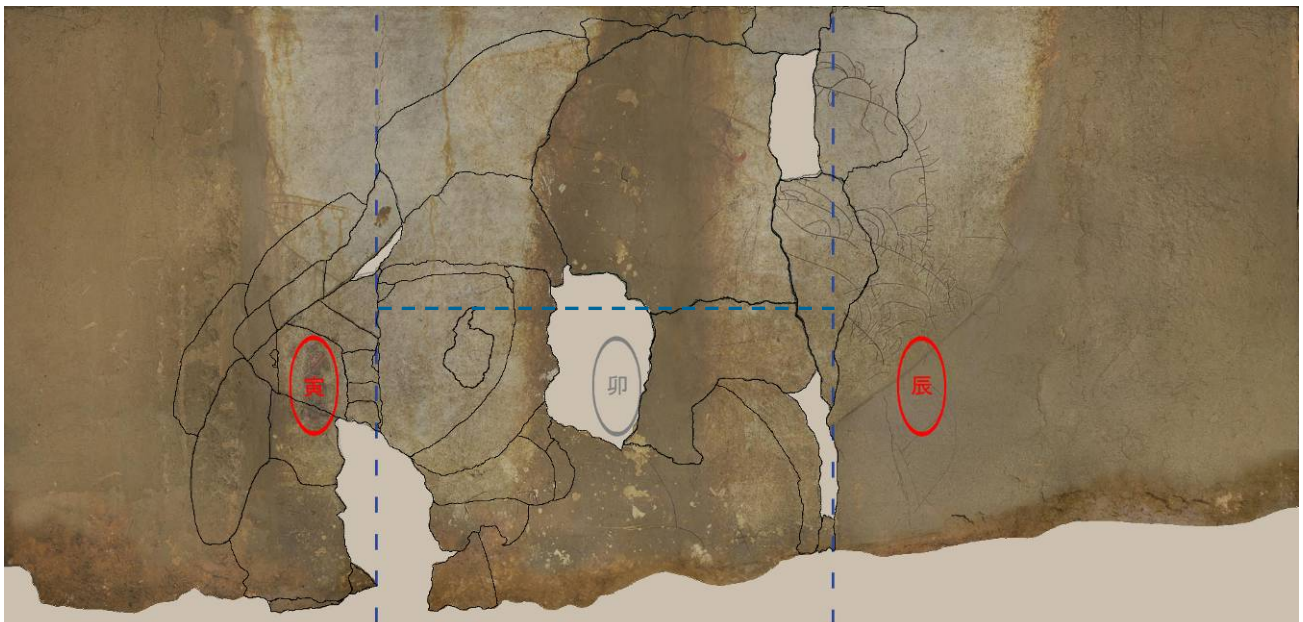
原則として石材単位を目安に再構成するが、各壁画の状況に応じ、個々の対応が必要な部分もある。例えば、東壁・西壁・南壁の具体的な再構成単位は、下図イメージのように、取り外した漆喰片の形状を勘案する必要がある。ただし、展示活用の際には、壁面を一体として見せることが可能である。

2. 漆喰がなく石が露出している部分の扱いについて

漆喰がなく石が露出している部分の色調等の扱いについては、補彩等の調整に融通が利くため、修理の工程上、最終段階での調整が可能である。従って、修理の最終段階で、進捗に合わせて検討する必要がある。

また、取り外した漆喰片同士の接合部分についても、同様である。

《再構成イメージの例》



東 壁



発見時から存在が確認されていないもの



存在が確認されているもの及び想定されるもの



石材の継ぎ目



取り外した漆喰片の接合部分



西 壁



南 壁